

住居跡もたて穴式住居跡と平地式住居跡が、それぞれ一か所ずつ発見されました。このことから、たて穴式住居と平地式住居の両方のすまいがあったのだろうと考えられます。

縄文から

縄文時代は、人々が自然にあるものをもって食べていた時代でし

弥生へ

た。大平のような高い段丘ではわき水を、三仏生のように低い段丘

では信濃川の水を利用していました。そして人々は動物を追い、木の実を拾い、魚をとる生活が中心だったのでしよう。

やがて人々は段丘から低地に移り住むようになってきました。

弥生時代の遺跡としては小千谷駅付近、三仏生の清水上、真人の三木明などわずかにあげられますが、それらの資料は少なく、その時代の姿をはっきりとらせることができません。

それは、小千谷では弥生時代の特徴である農耕生活が困難であったことが考えられます。このころの農耕は、川の近くの低い湿地帯の土地で行われていたのがふつうですが、小千谷には、それに適した土地が少なかつたのです。このようなことにより、小千谷には弥生時代の遺跡や遺物はほとんど残されていません。そ